

—みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜—

横浜みどりアップ計画

5か年の評価・提案

骨子案

横浜みどりアップ計画市民推進会議平成 30 年度報告書

横浜みどりアップ計画市民推進会議

平成 31 年〇月

目 次

1	はじめに	1
2	横浜みどリアップ計画と市民推進会議	2
	(1) 横浜みどリアップ計画	
	(2) 横浜みどリアップ計画市民推進会議	
3	市民推進会議 平成 30 年度の活動実績	5
	(1) 平成 30 年度の活動の概要	
	(2) 活動の詳細内容	
	①市民推進会議（全体会議）	
	②施策別専門部会	
	③調査部会（現地調査）	
	④広報・見える化部会	
4	横浜みどリアップ計画 5か年の評価、提案	11
	◆計画の体系	
	◆評価・提案の概要	
	◆各取組の柱のハイライト	
	(1) 取組の柱 1 市民とともに次世代につなぐ森を育む	16
	施策 1 樹林地の確実な保全の推進	
	施策 2 良好な森を育成する取組の推進	
	施策 3 森と市民とをつなげる取組の推進	
	(2) 取組の柱 2 市民が身近に農を感じる場をつくる	24
	施策 1 農に親しむ取組の推進	
	施策 2 地産地消の推進	
	(3) 取組の柱 3 市民が実感できる緑をつくる	32
	施策 1 市民が実感できる緑を創出する取組の推進	
	施策 2 緑を楽しむ市民の盛り上がりを醸成する取組の推進	
	◆地域緑のまちづくり事業の支援を受けた活動団体の受賞	
	(4) 効果的な広報の展開	41
	市民の理解を広げる広報の展開	
5	市民推進会議委員名簿	44
6	市民推進会議委員からのコメント	47
7	市民推進会議広報誌「みどリアップQ」（平成 30 年度発行分）	50

◆評価・提案の概要◆

計画全体として、…

「取組の柱1：市民とともに次世代につなぐ森を育む」については、みどりアップ計画の根幹である樹林地の指定は、小面積の指定が多くなったことや、地理的条件などにより、目標の面積に到達しませんでした。丁寧な土地所有者への働きかけに努めていることを評価します。平成31年度以降における計画では、民有樹林地の維持管理助成制度が拡充されたことから、指定が後押しされることを期待します。また、より自発的に市民や企業、地域等が樹林地に携わることで、樹林地が地域に親しまれ、良好に保全されるよう、様々な支援や情報発信等に取り組むことも必要です。

「取組の柱2：市民が身近に農を感じる場をつくる」については、水田保全奨励など、主要な取組については概ね目標を達成していることを評価します。引き続き奨励金による継続的な保全や、水源・水路の確保などにより、良好な農景観が次世代に継承されていくことを期待します。

地産地消については、Instagramを活用した「ハッシュタグ横浜農場キャンペーン」を大学と連携して実施するなど、新たな取組にも積極的に取り組んでいることを評価します。

「取組の柱3：市民が実感できる緑をつくる」については、民有地における緑化の助成は、目標を下回る助成件数となりました。今後は、この実績を踏まえて見直した制度が活用され、公開性が高い場所に緑豊かな空間が創出されることを期待します。

地域緑のまちづくりは、その地区ならではの緑のまちづくりを地域が主体となって進めており、計画に基づく緑化が進むとともに、緑や花の活動を通じた地域のコミュニケーションが活発になっています。今後も様々な地区で取組が進むことを期待します。

「効果的な広報の展開」については…。

…。



取組の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

農園の開設が進んでいます

野菜の収穫や果実のもぎとりなどを気軽に体験できる収穫体験農園、本格的な農作業が出来る特区農園や農園付公園を整備するなど、様々な市民ニーズに合わせた農園の開設が進んでいます。



<農園の開設状況>



31年6月に更新予定

- 凡例
- 農園付公園
 - 収穫体験農園
 - 特区農園
 - 環境学習農園

平成 30 年 3 月末現在

(2)取組の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

景観や生物多様性の保全など農地が持つ環境面での役割に着目した取組、地産地消や農体験の場の創出など、市民と農の関わりを深める取組を展開します。

施策1 農に親しむ取組の推進

事業① 良好な農景観の保全

みどり税

◆事業概要(計画書から抜粋)

集団的な農地から構成される広がりのある景観や、樹林地と田や畑が一体となった谷戸景観など、多くの市民に親しまれてきた農景観を次世代に継承するため、水稲作付を10年間継続することを条件とした水田所有者への奨励金交付や、地域の団体に共同利用する管理用設備の整備支援、意欲ある農家・NPO法人などが農地を安定的に利用できるよう、農地を長期間貸し付ける農地所有者に奨励金を交付し、農地の貸し借りを促進する取組などを推進します。

◆実績

項目	30年度		5か年の実績※	5か年の目標
	目標	実績※		
取組10 水田の保全				
水田保全承認面積	累計 125ha	承認予定 累計 117.8ha	承認予定 累計 117.8ha	累計 125ha
水源確保施設整備	3か所	実施予定 2か所	9か所 (実施予定を含む)	10か所
取組11 特定農業用施設保全契約の締結				
特定農業用施設保全契約件数	制度運用	契約 13件	契約 61件	制度運用
取組12 農景観を良好に維持する取組の支援				
良好に維持されている農地の面積	678ha	674.4ha	674.4ha	680.0ha
田園景観保全水路整備	1地区	整備予定 1地区	7地区 (整備予定を含む)	5地区
共同利用設備の整備	10件	申請1件	15件	25件
取組13 多様な主体による農地の利用促進				
長期貸付開始農地	新規 2.0ha 累計 97.6ha	新規 17.5ha 累計 127.3ha	新規 65.1ha 累計 127.3ha	累計 80.0ha

※30年11月末時点実績



保全された水田(泉区下飯田町)



整備された水路(青葉区奈良町)



長期貸付された農地(磯子区水取沢町)



農地縁辺部の植栽管理作業(都筑区折本町)

事業② 農とふれあう場づくり

みどり税

◆事業概要(計画書から抜粋)

食と農への関心や、農とのふれあいを求める市民の声の高まりに応えるため、収穫体験農園や様々な市民ニーズに合わせた市民農園(栽培収穫体験ファーム、環境学習農園、特区農園)の開設支援のほか、土地所有者による維持管理が難しくなった農地等を市が買取るなどして、農園を主とした都市公園の整備を進めます。また、市民と農との交流拠点である横浜ふるさと村や恵みの里での取組の推進や、市内の生産現場や直売所などの流通現場を巡るツアーの開催など、市民が農とふれあう機会を提供します。これらの取組の情報発信を充実させることにより、市民の利用や参加につなげます。

◆実績

項目	30年度		5か年の実績※	5か年の目標
	目標	実績※		
取組 14 様々なニーズに合わせた農園の開設				
収穫体験農園の開設支援	3.0ha	1.61ha	8.3ha	12.5ha
市民農園の開設支援	1.2ha	0.7ha	9.2ha	6.0ha
農園付公園の整備	0.7ha	整備中 0.7ha	4.1ha	7.3ha

項目	30年度		5か年の実績※	5か年の目標
	目標	実績※		
取組 15	市民が農を楽しみ支援する取組の推進			
ふるさと村・恵みの里の農体験教室など	100回	74回	430回	500回
あぐりツアー開催	4回	4回	19回	20回
農のある地域づくり協定	4件	1件	4件	4件
農体験講座	5回	5回	25回	25回

※30年11月末時点実績



開設支援した収穫体験農園
(戸塚区平戸町)



開設支援した特区農園
(青葉区元石川町)



恵みの里の農体験教室(緑区新治町)



家族で学ぶ農体験講座
(保土ヶ谷区環境活動支援センター)

市担当者からのコメント(環境創造局環境活動支援センター)

- 家族で学ぶ農体験講座は、小学生とその家族が協力して一連の農作業を体験することで農業について学び、横浜の農業や緑の必要性を楽しみながら知ってもらうことを目的としています。今年度は猛暑となり、畑での作業時間を十分に取れない状況でしたが、それでも草取りや追肥をしっかりと行い、無事に収穫まで行うことができました。参加者からは、「植物は簡単に収穫できないことを知った」、「他の野菜も作ってみたい」など、農業への理解や関心を深めることができました。今後も楽しみながら学び、横浜の農業や緑への関心を持つきっかけとなる講座を継続していきます。

◆施策1についての評価・提案

- 水田保全奨励など、主要な取組については概ね目標を達成していることを評価します。引き続き奨励金による継続的な保全や、水源・水路の確保などにより、良好な農景観が次世代に継承されていくことを期待します。
- 横浜に残る貴重な水田景観の保全に向け、次期計画でも取組を進めてください。
- 市民ニーズに合わせた農園が着実に増えたことを評価します。収穫体験農園や、環境学習農園などの市民農園、農園付公園は、未来を担う子どもたちにとってもかけがえのない経験となる機会ですので、引き続き農にふれあう場が増えていくことを期待します。
- あぐりツアーは毎回人気が高く、参加者の満足度も高いと聞いています。生産者の声を直接市民に届けられる貴重な機会でもありますので、引き続き市民のニーズに沿った内容で開催されることを期待します。
- 農地の長期貸付は、目標を上回った実績で出来ています。制度が農家の方々へ浸透し、長期で農地の貸し借りをを行うメリットが定着したと思います。このようにみどりアップ計画の事業をきっかけとして、今後は支援がなくても、自発的な市民の取組が見込まれることを大いに期待します。

施策2 地産地消の推進

事業③ 身近に感じる地産地消の推進

◆事業概要(計画書から抜粋)

地域でとれた農畜産物などを販売する直売所等への支援や、市内で生産される苗木や花苗の配布など、地産地消の取組を拡大します。さらに、地産地消に関わる情報の発信など、市民が地産地消を身近に感じるための取組を推進します。

◆実績

項目	30年度		5か年の実績※	5か年の目標
	目標	実績※		
取組16 地産地消にふれる機会の拡大				
直売所の整備・施設拡充の支援	12件	申請11件	50件	52件
青空市運営支援	5件	3件	20件	25件
緑化用植物の生産・配布	26,000本	25,151本	132,208本	125,000本
情報発信・PR活動	推進	推進中	推進	推進

※30年11月末時点実績



緑化用苗木の配布(青葉区)



食と農の祭典 2018@横浜農場

はまふうどナビ 49号

事業④ 市民や企業と連携した地産地消の展開

◆事業概要(計画書から抜粋)

市民の「食」と農地や農畜産物といった「農」をつなぐ「はまふうどコンシェルジュ」などの地産地消に関わる人材の育成やネットワークの強化を図るとともに、農と市民・企業等が連携する取組を推進します。

◆実績

項目	30年度		5か年の実績※	5か年の目標
	目標	実績※		
取組 17 地産地消を広げる人材の育成				
はまふうどコンシェルジュの活動支援	20件	20件	106件	100件
フォーラムの開催	1回	検討中	4回	5回
取組 18 市民や企業等との連携				
企業等との連携	15件	11件	48件	50件
ビジネス創出支援	10件	5件	20件	25件
学校給食での市内産農畜産物の利用促進	推進	推進	推進	推進

※30年11月末時点実績



はまふうどコンシェルジュ活動支援
(マルシェの開催)



地産地消ビジネス創出支援
(市内産野菜を使った乾燥食材の製造)



企業等との連携による商品開発
(横浜農場小松菜カレー)



はま菜ちゃん料理コンクール本選

市担当者からのコメント(環境創造局農業振興課)

- 今年度は新たな情報発信のツールとして Instagram の「横浜農場」公式アカウントを期間限定で開設しました。地産地消月間の 11 月には、フェリス女学院大学の学生とも連携しながら、横浜の「農」と「食」に関する写真を投稿してもらう「ハッシュタグ横浜農場キャンペーン」を実施することで、より多くの方々に地産地消の魅力を伝えることができました。引き続き、様々な主体と連携しながら、市民の皆様が身近に農を感じられる取組を進めていきたいと思います。

◆施策2についての評価・提案

- 直売所の整備・拡充支援など、地産地消の取組は概ね順調に進んだことを評価します。
- 地産地消の広報については、はまふうどナビは今年度からさらにスタイリッシュになり魅力ある広報誌となっていますし、Instagramを活用した「ハッシュタグ横浜農場キャンペーン」を大学と連携して実施するなど、新たな取組にも積極的に取り組んでいることを評価します。
- 「はまふうどコンシェルジュ」は人数も増え、自主的な活動も活発であると聞きます。多様な市民ニーズに応えるために、人材育成やネットワークを強化していくことを期待します。
- 企業との連携については、横浜農場小松菜カレーのような商品開発が着実に進んでいますので、今後も生産者と企業等のマッチングを進めることにより、地消だけでなく地産につながっていくことを期待します

「農を感じる」施策を検討する部会 部会長コメント

今期の5年間、「市民が身近に農を感じる場をつくる」をテーマに取り組んできましたが、①農に親しむ取組の推進と②地産地消の推進の二つを軸に、着実な積み重ねによって、概ね所定の成果を上げることができたように受け止めています。

特に①については、水田約120haの保全がはかれるとともに、長期農地貸付の推進等によって、良好な農景観の保全が進展しました。また②については農業体験教室の実施、直売所や青空市等の支援に、企業との連携による商品開発・販売等も加わって、逆に横浜産の農産物購入が容易ではないとの声を聞くようにもなりました。

都市と農とが交じり合い共生する横浜。横浜で未来の都市像の姿が具体化しつつあるように感じています。

蔦谷 栄一

